【委員】

労働基準監督署は国の役所なので、隣の署と比べたときに特別なことができるかというとなかなか難しい。深堀委員もおっしゃっていましたが、日中は事業者側、要は会社側へのアプローチはできますが、労働者の求める時間帯は夜間だったり、土日だったりしますから、なおさら特別に平塚の監督署で対応するのは難しいというハードルはあります。

ただ、監督署の役割は大きいと思っています。先ほど御説明いただいた自殺の特徴の資料1で1位は労働者の方ということで、過労だとすれば過重労働ですし、うつ病だとすればメンタルヘルスの対策になります。労働基準監督署が協力したいところであります。何ができるかと思っていたところ、個人的なアイデアも含みますが、平塚市ではこういう対策をしていますよ、とチラシを説明会で配布するとか、窓口のラックに配架したりすることは可能なのかなと思っています。

監督署も厚労省の傘下なので、3月の自殺対策強化月間というのはもちろん知っています。ただ、何をしているのかというとポスターが貼られているくらいですので、その部分は我々も少し見直さなければいけないところなのかなと感じました。

【委員長】

プロフィールを見ると明らかに労働者の方々は重要なキーワードだと思いますので、何らかの形でぜひアプローチをしてもらえるとありがたいと思います。それでは平塚市教育委員会の石井様、お願いいたします。

【委員】

学校も日々担任を中心にこどものことについては相談を受ける、保護者もそうですし、学校にはスクールカウンセラーも入っていますので、週2回くらいはスクールカウンセラーがいてそこで受けています。

キャンペーンは普段して欲しいのにしてくれない人がしてくれるチャンスということで大事なことだと思いますが、学校が周知することには違和感がありました。

話がそれてしまうかもしれませんが、資料2の事業8番、青少年の相談支援体制の強化のところで、相談相手に保護者も入れました、ということはとても大事だと思いました。日々学校からの相談を受けている中で保護者の困りごとは非常に多いなと思っています。

私は元教員で、教育委員会に関わって十数年になる中で、自殺企図する子とか「死」を言うような子はいますが、私の感覚だとほとんどが子ども同士の関係よりも家族の中のことが関係していると思っています。ただ、先ほどの説明で自殺には70の要因があり、そのうち4つは関係しているという話があったので、子ども同士の関係がないかということそんなことはないのでしょうかけれども、メインターゲットはほぼ家族で、そういう家庭は保護者をどうにか助けてあげないと、と感じるのでそこにアプローチすることが必要だと思いました。

【委員長】

こどもの自殺が多いという悲しいデータあり、そこにもアプローチしているわけですが、そこに保護者というキーワードも問題として隠れていますね。何かしら保護者へのアプローチできたらと思います。何か教育委員会で考えていただければありがたいと思います。

【委員】

平塚市と社会福祉協議会の女子トイレにDV相談か何かの小さいカードは置いてある。このリーフレットも同じように置いて置いたらどうでしょうか。

【委員長】

DV問題も自殺につながりやすい要因ですね。

【委員】

トイレのカードは社会福祉協議会さんでもありましたよね。

【委員】

以前はA5の半分のサイズで作っていました。少し厚かったですが以前はそういったものもありました。

【委員】

委員皆さんの話を聞いていて思ったことです。キャンペーンを実施するというので内門委員は困っていらっしゃいましたが、名称は考えるとして、「医師会は〇〇キャンペーンに賛同しています」「応援しています」といった意思表示をしてもらってポスターを貼るとか、窓口がないと難しいと思うので、意思表示をもらうだけでもするのでもいいのかなと思います。

窓口を持っている機関は良いですが、そうでない機関と分けたほうが協力してもらえらる機関が増えそうな気がします。

【委員長】

どうですか。

【事務局】

事務局でもそういう発想は持っています。まずは小さく始めようと、スケジュールを組ませていただきましたが、今回できたことがあればブラッシュアップしていきたいと思っています。

来年、再来年に向けて、皆さま以外での機関とも協力してできないかということでは、岩崎委員のおっしゃったような協力の仕方で輪が広がっていくことは素敵な話だと思っていますので、それも含めてぜひご参加いただければという願いでいます。

【委員長】

まずはこの委員の中でということで始めましょうかということで、できれば展開を広げて支援の輪を広げる、ということですね。

【事務局】

はい。将来的にはそうしていきたいと思います。その他何か御意見があれば。

【委員】

石井委員がおっしゃっていた、先進国中でも日本のこどもは精神的幸福度がとても低い位置にあって、その裏には家庭問題・学校問題もあると思います。こどものケアはとても大事ですが、保護者であるお母さん、お父さんのケアも重要なことだと持っていて、サードプレイスという学校でもない家庭でもないこどもが逃げられる場所、心を開ける場所を作っていくって欲しいということがあります。もう一点、大学生、特にコロナ禍で学校にいけない時期に上京をしていたけれどずっと家にいて何の支援も受けられず自殺企図をしてしまう人が多いので、友達や学校がゲートキーパーになると思うのももう少し、そこを広げて養成してもらいたいと思いました。

【委員長】

私の大学では私が持っている公衆衛生看護学概論という授業でゲートキーパー養成研修を入れていて、1年生の時に看護学科の学生は全員ゲートキーパー養成研修を受けています。人の命を守ることは、自殺も一つ命を守る大事なポイントですよ。そこは授業の中で伝えていきます。

【委員】

ゲートキーパーの講習の内容について、私は何度か受講しましたが、最初の頃はロールプレイが入っていて、話のやり取りが入っていました。民生委員は自宅に訪問して「いきなり何か悩んでいることありませんか」と聞くこともできないので、お話の中から聞き出していくわけですから、そういう方法もロールプレイとして講習の中に入ったらいいなと思っています。昨年でしたかロールプレイをして欲しいと言った時に、その時の講師からロールプレイの講習を受けていないと言われました。でもやはり話を聞きだすには、ロールプレイが良いと思いますからその講習が入れば良いと思います。

【委員長】

話しの引き出し方ってありますよね。いきなり「死にたいですか」と聞くわけにはいかないですよ。何かコミュニケーションのキャッチボールの方法も入れてもらえればと思います。そのほか何かありますでしょうか。

【委員】   <<意見無し>>

【委員長】

貴重な意見をありがとうございました。キャンペーンの取り組み方はそれぞれの場所で、できることとできないことがあると思いますが、実施すること自体は良いということで進めてよろしいでしょうか。特に意義がなければ良いでしょうか。

【委員】   <<意見無し>>

【委員長】

どのように進めるかは各々考えていただきまして、進めていく方向で検討していきたいと思っています。いつ実施するのは、3月の自殺対策強化月間という話が出ているので、そこで進めていくということでよろしいでしょうか。

【委員】   <<意見無し>>

【委員長】

3月中に不安がある方はいらっしゃいませんね。岩崎（悦子）委員は、方法によっては協力できるということでよろしいでしょうか。

【委員】

そうですね。

【委員長】

ありがとうございます。それでは事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】

はい。普段通りの業務でキャンペーンができればと思っていましたが、思った以上に普段以上に対応してくださる方向での意見が出て良かったです。事務局だけで決めて強制的に進めるということではなく、委員の皆様と考えながら進めていきたいと考えております。会議が終わった後も、メールや電話で連絡を取らせてもらい、無理なく進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【委員長】

ここでお集まりいただいている委員の皆様方は自殺対策に置いて大事な役割があって出ていると思います。単独でしっかり取り組んでいただくことも重要なことではありますが、やはりネットワークでつながることさらに強いものになっていくだろうと思います。漏れのないようにキャッチして命を守ることが皆の共通の目標だと思います。それを目指してい

けたらと思っております。今後ともよろしく願いたします。皆様の御協力もあり全ての議事が終了いたしました。それでは事務局へお返いたします。

【福祉総務課長】

皆様ありがとうございました。以上を持ちまして、自殺対策会議を閉会します。本日は、ありがとうございました。